



## 四旬節第5主日 (ヨハネ 8:1-11)

ウクライナとロシアの人々ともイエスはともにおられる

(説教の枕「エイプリルフールの夢」の後) とりとめのない話にお付き合いくださり、ありがとうございます。説教に入りましょう。「これを聞いた者は、年長者から始まって、一人また一人と、立ち去ってしまい、イエスひとりと、真ん中にいた女が残った。」(8・9)最後に、イエス一人と、真ん中にいた女性が残りました。ここに私は目を留めたいと思います。

今年、チャンスを頂いて紐差教会で黙想会の話をしました。皆さんの中にもすでに YouTube で講話の様子を視聴された方もおられるでしょう。紐差教会での黙想会のテーマは「イエスとともに歩む」でした。イエスが私たちとともに歩いてくださるから、イエスに信頼して、誰かのために一緒に歩いてあげる人になってください。そういう展開でした。

実は今週の福音朗読でも、「ともに歩いてくださるイエス」の姿が描かれています。姦通の現場で捕らえられたという女性を排除し、追い詰めようとしている人々の中で、イエスだけはこの女性に寄り添ってくださいます。そして最後に、「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。これからは、もう罪を犯してはならない」(8・11)と言ってくださいました。

ここには直接触れられていませんが、「これから」についても、イエスは女性とともに歩んでくださることを匂わせています。女性は、その場を切り抜けられてホッとした、それ以上の支えをイエスから受け取ったはずですが。罪に押しつぶされそうな人に誰も寄り添ってくれないことを見せつけられたのですが、そんな中でもイエスは寄り添ってくださる、ともに歩いてくださることを証明してくださったのでした。

紐差教会の黙想会の中で、ふと思ったことがあります。ロシアがウクライナに軍事侵攻して、ウクライナでは子供を含む民間人が多数犠牲になりました。ウクライナ兵を含めて、三千人以上犠牲になったかも知れませんが。また同時に、戦争を仕掛けたロシア軍の、前線にいる兵士達は、報道によるとウクライナ国民の数倍の犠牲者が出ていると言われています。

仮に、ウクライナ国民の犠牲者が三千人、ロシア軍の兵士の犠牲者がその二倍を超える七千人だとしましょう。一ヶ月で一万人の犠牲者は、過去のどの戦争よりも犠牲者が出るスピードが速いのです。これだけの犠牲者が不必要に出たことを見て、ある人たちは「神様は本当にいるのだろうか」と考えたことでしょう。そう考えるのも無理はありません。

しかし私はすぐにこう考えたのです。イエスは、ウクライナ国民にもロシア国民にも、ともに歩いてくださっている。ウクライナ国民が爆撃や砲弾の中を逃げ惑うあいだ、イエスもともに逃げ惑い、怯える人々とともにいてくださっている。そして残念ながら犠牲者が出ると、その犠牲者と同じだけのイエスが死んでくださっているのだ。そう考えまし

た。

またウクライナの国土を踏みにじっているロシア兵とも、イエスはともに歩いてくださって、まるでエマオに向かって一緒に歩いていた弟子たちのように、一緒に歩いていることを気づいてくれなくとも辛抱強く説明し、心に語りかけたように、攻撃を止めないロシア兵に辛抱強く語りかけ、正しい心を取り戻すように呼びかけておられる。そしてロシア兵にも犠牲者が出ると、ともに歩んでおられるイエスもロシア兵とともに死なれているのだ。私はそのように考えたのです。

ですから「この戦争を見て『神様は本当にいるのだろうか』と疑う人に、『ウクライナ国民とロシア国民のために一万回死んでくださるイエスが神でなくて誰でしょうか？生と死を、寄り添ってともにしてくださる方は、神でなくて誰でしょうか？』」と答えたいのです。

来週から聖なる一週間が始まります。イエスが私たちのために十字架にかかって死んでくださり、復活なさる聖なる一週間ですが、いまだにイエスの十字架上の死を神がなぜ引き受けなければならないのか疑問に思う人もいるかも知れません。今週の説教が、そのことを理解する助けになればと思っています。ウクライナ国民にもロシア国民にもともに歩んでくださり、亡くなっていく人々とともに今も死んでくださる慈しみ深い方が、私たちの信じる神なのです。

最後に、ミサ依頼を貼る掲示板には、**2022**年度の教区司祭人事異動を掲載しております。中田神父は6年前の4月6日に田平に赴任し、6年が過ぎたのでひょっとしたら異動かもしれないなあ、と思っておりました。しかし結果は、一覧表の通りでほんのわずかの人事異動だけが発令されただけでした。大司教様が考え抜かれた結果だと思えます。

私も気持ちを入れ直して、田平教会の皆さんと、この一年をともに歩み、喜びと悲しみ、収穫と、場合によっては苦しみも、ともにしたいと思えます。どうか今年も一年よろしくお付き合い願います。